

インフルエンザ感染

1. インフルエンザとはどんな病気ですか？

毎年初冬から春先にかけて流行するウイルス感染症です。

2. どのようにして感染するのですか？

- ①感染している人の咳やくしゃみで飛び出したウイルスを吸い込み感染する飛沫感染。
 - ②感染している人との直接の接触や、ウイルスがついている手やドアノブを介して感染する接触感染。
 - ③空気感染
- 主に①飛沫感染によるとされています。

3. どのような症状がでますか？

潜伏期間は1～4 日です。

発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、のどの痛み、鼻水、咳などの症状が現れます。

合併症に肺炎や脳症があります。脳症になるとけいれんや意識の低下などがみられます。

4. どうやって診断するのですか？

鼻の奥を綿棒でこすってインフルエンザウイルスを検出します。

10～15分程で結果がわかります。

ただし、発熱数時間以内は、検査しても陽性になりにくいいため、翌日まで診断がつけられないことがあります。

5. 治療は？

1) インフルエンザにかかったら抗インフルエンザ薬をつかいます。

- ①内服薬(タミフル)
- ②吸入薬(リレンザ・イナビル)
- ③点滴静注薬(ラピアクタ)などがあります。

2) 発熱時には解熱剤をつかいます。

アセトアミノフェン(アルピニー・アンヒバ・カロナールなど)を使います。

アセトアミノフェン以外(ボルタレン・ポンタール・アスピリンなど)の解熱剤は危険です。

市販の総合感冒薬にはアセトアミノフェン以外の解熱剤が使われていることがあるので注意が必要です。

3) 水分補給、睡眠、栄養、保温など安静にして様子をみます。

6. 感染しないためにはどんなことに注意すればよいですか？

手洗い、うがいはもちろん、マスクをすることも有効です。

最も予防効果が高いのは**予防接種**です。

7. インフルエンザの予防接種はいつ頃うけた方がよいですか？

予防接種によって2週間位で抗体(免疫)ができ、約5ヶ月は効果が続くとされています。

接種は6ヶ月以上13歳未満の小児は2～4週間の間隔をおいて2回行います。

10月から12月中旬までに接種を行うようにしましょう。

12月中旬までには2回の接種をすませることをおすすめします。